

やってみよう！
個別最適化時代の
新たなチャレンジ！



教えて！
あなたの ICT・IoT 活用
あなたの指導・支援のコツ
あなたの分掌業務

第 6 回 NIIGATA 特別支援教育学会

(一次案内)

主催 新潟県特別支援学校長会

学会特別企画 オンライン・トークセッション (オンデマンド配信)

「新しい特別支援教育のカタチ (仮)」

コロナ禍での開催 3 年目となりました。昨年度までの紙面発表に加え、今年度は新企画・オンライン・トークセッション「新しい特別支援教育のカタチ (仮)」を企画検討中です。特別支援教育の最新情報をオンライン・トークセッションという形でみなさんにお届けいたします。詳細は、二次案内にてお知らせいたします。乞うご期待！

学会誌 特集企画

「新潟県特別支援教育の最新情報」 & 「頑張る若手教師 (仮)」

昨年度の学会誌の特集において、ご好評をいただいた「新潟県特別支援教育の最新情報」は今年度も継続し、旬でホットな情報をみなさんにお届けしたいと思います。加えて、これからの特別支援教育を引っ張っていく若手の先生方にスポットを当て、現在取り組まれていることや目指す将来の姿などをインタビュー記事として掲載することも考えています。こちらもお楽しみに！

実践研究大募集

(募集期間:9月~11月末)

個別最適な学びの
具体が知りたいです

最新のキャリア教育
や進路指導は？

特別支援学級、通級指導教室の
実践も必要ですね

ICTを使って
どんな実践してる？

寄宿舎での実践は
どうなっている？

3観点での目標設定や
評価はどのようにしてますか？

新しい学校での新しい実践
も知っておきたいですね

あなたが実践を発表することで、県内の先生の役に立ちます。あなたも県内の先生方の実践を読むことで目の前の子供の指導に役立てられます。実践でつながり、実践で支え合う。そんな実践のシェアリングによって、先生たちみんなの指導、支援、業務が良くなっていきます。特別支援を必要とする子供たちの笑顔がもっともっと増えていくことでしょ。

そんな子供たちの明日がハッピーとなるように、未来のハッピーにつながる自信、意欲をもたせられるように、NIIGATA 特別支援教育学会で共に学び合っていきましょう！あなたの身近でスペシャルな実践、ぜひお待ちしております！

特別支援学級における自立活動の実践 ～小集団指導と個別指導の一例～

高島川市立下早川小学校 教諭 加茂 文

1. 概要と目的
【特別支援学級】 子どもの実態に応じて「特別な教育課程」を実施
→「自立活動の指導を教員個人が実施することが定められている」
※教育課程を編纂して取りやめようとしていたけれども、子どもたちの実態に鑑み、
適切な実践を編纂する必要がある

→ 小学校の特別支援学級で、小集団指導と個別指導の自立活動の指導を定例的に行った。

2. 方法と結果
【実践1】 対人長びとコミュニケーション能に課題がある児童(小1~小4)の小集団指導
→ 毎日の授業 20分間に実施した

【実践2】 課題解決 有難いことになったが、みんなの力を借りて解決しようとする児童の育成
→ 毎日の授業 20分間に実施した

3. 考察
→ 子ども一人一人の自立活動の指導を定例的に実施した

ポスター原稿イメージ

特別支援学級における自立活動の実践 ～小集団指導と個別指導の一例～

(自立活動) コミュニケーション、職業の準備
高島川市立下早川小学校 教諭 加茂 文

1. 問題と目的
【問題】 特別支援学級では特別な教育課程を実施する上で、自立活動の指導が中心に行われている。しかし、当該特別支援学級の児童は、児童の発達段階や学習意欲に個人差があり、多動性や衝動性がある児童が多いため、学校生活の様々な場面でトラブルが生じることが多い。そこで、その実態に応じて特別支援学級から、個別指導や小集団指導による児童への自立活動の指導を実施し、児童の自立活動を促進することとした。

2. 方法と結果
【実践1】 小集団指導の指導
当該特別支援学級の児童は3名である。そのうち1名は児童の発達段階や学習意欲に個人差があり、多動性や衝動性がある児童であった。学校生活の様々な場面でトラブルが生じることが多い。そこで、その実態に応じて特別支援学級から、個別指導や小集団指導による児童への自立活動の指導を実施し、児童の自立活動を促進することとした。

【実践2】 個別指導の指導
当該特別支援学級の児童は3名である。そのうち1名は児童の発達段階や学習意欲に個人差があり、多動性や衝動性がある児童であった。学校生活の様々な場面でトラブルが生じることが多い。そこで、その実態に応じて特別支援学級から、個別指導や小集団指導による児童への自立活動の指導を実施し、児童の自立活動を促進することとした。

3. 考察
当該特別支援学級の児童は3名である。そのうち1名は児童の発達段階や学習意欲に個人差があり、多動性や衝動性がある児童であった。学校生活の様々な場面でトラブルが生じることが多い。そこで、その実態に応じて特別支援学級から、個別指導や小集団指導による児童への自立活動の指導を実施し、児童の自立活動を促進することとした。

抄録原稿イメージ

- 発表形式の概要—
- ①実践研究発表は、紙面発表です。
 - ②ポスター原稿と抄録原稿の2ページで構成してください。
 - ③ポスター原稿、抄録原稿共にワード(word)で作成し、データを事務局にお送りください。
 - ④事務局で発表データをまとめ、学会誌及びデジタルブックで配布、配信します。
 - ⑤体裁等の詳細は次回案内にてお知らせいたします。

—今後の予定—

- 9月...二次案内(実践研究発表申込開始)
- 11月...実践研究発表データ提出締切
- 1月...実践研究発表題目一覧配信
- 3月...学会誌配布、デジタルブック配信

【NIIGATA 特別支援教育学会事務局】

担当:長谷川 哲
〒950-0806 新潟市東区海老ヶ瀬 994(県立東新潟特別支援学校)
TEL:025-274-3262 FAX:025-270-8329
Mail:school@higashiniigata-tk.nein.ed.jp